



## 警告 のニューズレター「角笛」

発行日：2013年2月発行（第34号）

発行：警告の角笛出版

価格：フリーペーパー（無料）

角笛 HP: <http://www.geocities.co.jp/Technopolis-Mars/5614/>

目次：

◎巻頭メッセージ「蘇る獣の国、アメリカ」エレミヤ

□証「教会を荒らす牧師や教師への神からの警告」E3

◎お知らせコーナー 「黙示録セミナー」

### < 巻頭メッセージ >

#### 「蘇る獣の国、アメリカ」

by エレミヤ

本日は「蘇る獣の国、アメリカ」として、獣の国であるアメリカが、この後、大きな戦争により壊滅すること、さらにしばらくして、奇跡的に回復し、その後、世界帝国として全世界に君臨するようになる、それらのことがらを見ていきたいと思えます。

### < アメリカこそ、終末の鍵となる国である >

アメリカは聖書に出て来ない、などと真顔でいうクリスチャンもいますが、私の理解では、それはまったくの間違いです。アメリカこそ、聖書がかねてから、その出現を預言していた国であり、この国を理解しないことには、終末のあらゆるできごとを理解することはできません。

### < 獣の国は打ち殺されるような傷を受ける >

獣の国アメリカが打ち殺されたかと思われるよ

うな傷を受けることは黙示録に明言されています。以下の通りです。

**”黙示録 13:3 その頭のうちの一つは打ち殺されたかと思われたが、その致命的な傷も直ってしまった。そこで、全地は驚いて、その獣に従い”**

ここには、7つの頭のうちの一つであるアメリカが打ち殺される、具体的には、戦争の災禍により、壊滅して二度と復興することなどありえないほどの傷、災害、ダメージを受けることが書かれています。しかし、それだけではなく、「その致命的な傷も直ってしまった。」すなわち、驚くほどのスピードでそれらの災禍からアメリカが復興することも、記載されているのです。

そして、その復興を見た「全地」、すなわち、全世界の国々はその後、この復活したアメリカの支配、強権に服するようになることも記載されているのです。

かくのごとく、これから起きるアメリカの戦争による災禍、復活という出来事がこれからの終末の時代において、重大なポイント、分岐点になることがよくわかるのです。

### <9.11 テロはこの事の型か>

私の理解では、2001年9月11日、すなわち、21世紀に入ったその年に起きたアメリカのいわゆる911テロはこれから起きるアメリカの災禍と復活の型といえるかもしれません。911テロを契機にアメリカは変わったとは、多くの人が口にする事です。イスラム教徒による残虐なテロを受けた、と強弁するアメリカにより、イスラム諸国は攻撃されイラクは攻撃にさらされました。911テロはアメリカの他国攻撃のもっともらしい口実になったのです。

また、アメリカ国内においては、「テロからの自衛のため」と称して、マスコミ規制が行われ、またメールや個人情報、政府により、監視されるようになりました。911テロはアメリカの言論弾圧や、個人情報把握の口実となったのです。テロに備えるため、という、公の口実があらゆる理不尽なアメリカの規制を、正当化するようになったのです。

このことは、これから起きる日の型として理解することができると思われます。すなわち、これから起きるアメリカの戦争による災禍は、その後、アメリカが軍事的に復活した後、この国が世界を軍事支配するもっともらしい口実、理由となると思われるのです。

アメリカは、戦争の災禍により、壊滅的な被害に会った。だから、これから、「2度と世界に戦争を起こさないため」として、アメリカによる世界支配は、「正当化される」可能性が高いのです。「その致命的な傷も直ってしまった。そこで、全地は驚いて、その獣に従い」との黙示録の記述はまさにこれから起きる近未来のアメリカによる、全世界支配の日を描写しているように思えます。

### <10本の角は復活する>

アメリカが戦争で壊滅する、その後、復活するなどという話を突然書き出すと、まるで、SFの世界の話に思えるかもしれませんが、そうでもありません。注意深く読むなら、聖書の記事にはこの終末の獣の復活を暗示するような記述が他にもあ

るからです。たとえば、以下です。

**”ダニエル 7:24 十本の角は、この国から立つ十人の王。彼らのあとに、もうひとりの王が立つ。彼は先の者たちと異なり、三人の王を打ち倒す。”**

ここに終末の日の獣の国の10本の角について書いてあります。日本語では、この箇所は、「この国から立つ十人の王」として、何の変哲もないのですが、しかし、ギリシャ語70人訳で読むと、ここには、「この国から（復活する）十人の王」として、復活、アナスタシアというギリシャ語が使われているのです。復活するということは、その前提に死ぬことが必要ですから、ここでも終末の獣の国、10本の角と7つの頭を持つ獣の国が一度、死ぬような目に会うこと、しかし、奇跡的に復活することを聖書が暗示していることが理解できるのです。

### <アメリカは影の政府を地下に持っている>

かくのごとく、聖書のいくつかの箇所は明らかにアメリカの壊滅と復活の日を預言しているのですが、アメリカの現状はどんなもののでしょうか？実はアメリカはその日、核戦争による壊滅の日を想定したかのように、既にその地下に影の政府を持っています。以下の毎日新聞の記事がこれを報道します。



アメリカの地下秘密軍事基地

# 「蘇る獣の国、アメリカ」

by エレミヤ

<引用始め>

影の地下政府：

核テロ攻撃に備え発足 米大統領認める〔毎日新聞 2002年3月2日〕

【ワシントン佐藤千矢子】

米国のブッシュ政権が、核によるテロ攻撃に備えて、首都ワシントンから離れた東海岸の地下壕に政府高官約100人を交代制で勤務させる「影の地下政府」を極秘に発足させ、運営を続けていることが1日、明らかに。同日付ワシントン・ポスト紙が報じたのを複数の政府筋が確認し、大統領も「我々は政府の継続性を真剣に考えている」と事実上、認める発言をした。

同地下政府は「シャドー・ガバメント」（影の政府）と呼ばれる。旧ソ連による核攻撃の脅威があった冷戦時代にも同様の計画があったが、実施されたのは初めて。今回は、テロ組織アルカイダが持ち運び可能な核兵器を入手し核攻撃を行う場合を想定している。

全省庁から計75～150人の政府当局者が選ばれ、山腹にある2カ所の地下壕のような場所に発電機、電話、パソコンなどを持ち込んで、90日交代で24時間態勢で寝泊まりしながら業務を行っている。当局者らは口外を禁じられ、家族や友人らはフリーダイヤルや切り替え電話で連絡を取るシステムになっている。

アルカイダが核兵器を入手したことを示す確かな情報はないものの、側近によれば大統領はその事態を心配しているという。地下政府は、緊急時の米国民の食料、飲料水を備蓄・供給するほか、交通、エネルギー、通信の維持などを担当する。

最悪のケースとしては、ワシントンが核攻撃を受けて壊滅し、政府機能がまひした後、チェイニー副大統領が地下政府を運営するというシナリオが想定されているという。

<引用終わり>

何故アメリカは地下に影の政府機関を持っているのか？その名目的な理由はテロに備えて、ということらしいのですが、事実はそうとは思えません。むしろ、アメリカが上述の様に、来るべきその日、戦争災害の日にかねてから備えている、そして、たとえ、アメリカ全土を核攻撃されても、なおかつ、復活するその日のために備えている、そのように思えるのです。

何故地下に政府を作るのか、ということそれは、来るべき核戦争の日を想定しているから、であると理解できます。核爆弾が使われたとしても、地下にもぐればその影響から逃れられますし、核攻撃を受けても、1週間もすれば死の灰の影響は、半減しますので、その間地下に隠れていれば、無事に過ごすことができるのです。アメリカは本気でその日を想定しており、その日を前提に動いているのです。

## <アメリカの地下の軍事基地>

さらにアメリカには地下政府のみならず、地下一マイルの深さの場所に秘密裏に地下基地が設けられています。そこに飛行機、さらに軍艦さえ備えられています。また、アメリカの主要都市は地下に張りめぐらされた交通網によって、行き来が可能です。こんな風に書いていると、なんだかおとぎ話のようですが、これらの地下基地の現状を撮影したユーチューブが多数アメリカのインターネットサイトに投稿されています

Underground base などの用語で検索してみてください。

<7番目であり、8番目の頭であるアメリカ>

## 「蘇る獣の国、アメリカ」

by エレミヤ

このこと、アメリカが、一度、瀕死の重傷を負い、なおかつ復活することを黙示録17章は以下の表現で記しています。

”黙示録：17:11 また、昔いたが今はいない獣について言えば、彼は八番目でもあります、先の七人のうちのひとりです。そして彼はついには滅びます。”

ここには、昔いたが今はいない獣であるアメリカに関してそれは、「先の7人のうちの一人」であり、なおかつ「8番目」でもあることが書かれています。同じアメリカが何故7番目であり、なおかつ8番目なのか？疑問が生じます。

このことを考えるヒントとして数秘学（ゲマトリア）の視点から、8という数字を考えるならば、復活を表す数字なのです。主イエスも週の初めの日、すなわち8番目の日に復活されました。8は聖書的に、復活の数なのです。ですから、8番目の王とは、すなわち、7番目の王アメリカが復活した国をさす、と理解できるのです。すなわち、同じアメリカという国は復活を分岐点として、以下の様に2つの国として聖書に描かれているのです。

7番目の王：戦争の災害、復活前の今のアメリカ、まだ10本の角を持たない。  
8番目の王；戦争災害の後、復活するアメリカ。  
10本の角を持つ。

＜その災いの日に淫婦バビロン、背教のアメリカキリスト教会は滅ぶ＞

アメリカが戦争によって滅ぶ、と書きましたがその様な日が実際に起きるなら、それは、想像するだに、恐るべき日です。その日に関して、聖書は淫婦バビロンが火で焼き尽くされる日として描写しています。

”黙示録 18:8 それゆえ一日のうちに、さまざまな災害、すなわち死病、悲しみ、飢えが彼女を襲い、彼女

は火で焼き尽くされます。彼女をさばく神である主は力の強い方だからです。

18:9 彼女と不品行を行ない、好色にふけた地上の王たちは、彼女が火で焼かれる煙を見ると、彼女のこととて泣き、悲しみます。

18:10 彼らは、彼女の苦しみを恐れたために、遠く離れて立っていて、こう言います。『わざわざ来た。わざわざ来た。大きな都よ。力強い都、バビロンよ。あなたのさばきは、一瞬のうちに来た。』”

アメリカが核戦争により、攻撃される日、それは、911テロの様に前もって準備されたやらせの戦争なので、この国の主だった人々は地下に逃げるでしょう。しかし、そうでない人々は当然滅んでしまいます。そして、その滅びの日はまた、かねてから、黙示録で淫婦バビロンの裁きとして預言されていた日でもあるのです。

黙示録に書かれた、バビロンが一日のうちに火で焼かれるということばは、かつての日には実現不可能なことがらでしたが、核ミサイルが、使用される今日においては大いにあり得ることがら、となりました。ですので、盲人はともかく、目の開かれたクリスチャンは理解しなければなりません。



地下基地建設のための巨大な掘削機

神は今アメリカで行われる悪霊リバイバル集会や、レフトビハインドで象徴されるインチキ終末教理、艱難前携挙説などのヨタ教理を受け入れているわけでも容認しているわけでもなく、いずれ、アメリカの背教の教会に対して神の裁きの日が来ることを2000年も前に書かれた黙示録の中で預言しておられた、ということを知るべきなのです。

### ＜復活後のアメリカは獣の本性をむきだしにする＞

アメリカがその獣としての本性を發揮するのは復活後のことです。以下のことばはそのことを暗示します。

”黙示録:13:1 また私は見た。海から一匹の獣が上って来た。これには十本の角と七つの頭とがあった。その角には十の冠があり、その頭には神をけがす名があった。

13:2 私の見たその獣は、ひょうに似ており、足は熊の足のようで、口はししの口のようであった。竜はこの獣に、自分の力と位と大きな権威とを与えた。

13:3 その頭のうちの一つは打ち殺されたかと思われたが、その致命的な傷も直ってしまった。そこで、全地は驚いて、その獣に従い、

13:4 そして、竜を拜んだ。獣に権威を与えたのが竜だからである。また彼らは獣をも拜んで、「だれがこの獣に比べられよう。だれがこれと戦うことができよう。」と言った。”

この箇所から、アメリカに対して全地が恐れを抱き、この獣の国に従い、特にその軍事力に恐れを抱き、「だれがこの獣に比べられよう。だれがこれと戦うことができよう。」と語るのはアメリカが10本の角を持つとき、すなわちこの国が8番目の頭として、復活した後であることがわかるのです。

そして、その日には、以下の様に42ヶ月、すなわち、3年半の艱難時代も実現します。

”黙示録:13:5 この獣は、傲慢なことを言い、けがしごとを言う口を与えられ、四十二か月間活動する権威を

与えられた。

13:6 そこで、彼はその口を開いて、神に対するけがしごとを言い始めた。すなわち、神の御名と、その幕屋、すなわち、天に住む者たちをのしった。”

そして、その艱難時代は全世界に及びます。何故なら、アメリカの支配は全世界に及ぶからです。以前の号で伝えたように今アメリカでおきているトレンドはイエスの名前を告白したり、伝道する人々を逮捕する、すなわち、イエスを愛する者を憎む風潮です。このことは、アメリカがその本性を現す日、8番目の王として、復活する日にますます加速され、全世界の正しいクリスチャンへの迫害となって実現するでしょう。

しかし、その中でも、以下の様に主のみことばを守るものへの守りは約束されていることを知りましょう。

”黙示録: 3:10 あなたが、わたしの忍耐について言ったことばを守ったから、わたしも、地上に住む者たちを試みるために、全世界に来ようとしている試練の時には、あなたを守ろう。”

いつまでも艱難前携挙だのヨーロッパが獣の国だの、終末の愚かな作り話に耳を傾けている場合ではありません。正しく時をみわけ、獣の国を見分けて行きましょう。  
—以上—



軍艦をも収容できる巨大な地下基地

## 「教会を荒らす牧師や教師への神からの警告」 E3

かつてエレミヤ牧師が数回にわたって、「教師への警告」についてメッセージをされていたかと思いますが、最近再度、そのことに関して主からの語りかけを受けたように思いましたので、お話しさせていただきたいと思います。

御言葉に沿って話をしていきます。以下の引用箇所は、土曜日の弟子の歩みのおすすめの時に学んだものです。

参照 エレミヤ書 12:10

**12:10** 多くの牧者が、私のぶどう畑を荒らし、私の地所を踏みつけ、私の慕う地所を、恐怖の荒野にした。

聞いて驚かれるかもしれませんが多くの牧者が、「ぶどう畑」すなわち「教会」を荒らすということを上記御言葉は言われているのです。このことはエレミヤ牧師が言われていたのですが、「牧師が神の前に災いになる」ということを言われているのです。もちろんすべての牧師や教師が、「災い」になるわけではありません。神の前に、「災い」になる牧師や教師の例をいくつか挙げるなら、こういうことでしょうか。たとえば、「クリスチャンは、艱難は通らずに携挙される」とか「キリストの再臨はすべてのクリスチャンにとってこの上ないハッピーな時」とか「裁かれるのは未信者だけ」とか、そのようなことを語るメッセージャーのことです。また、たとえの意味合いや御言葉の奥義について理解しようとしなかったり、神の愛や祝福や恵みばかりを強調して神の裁きや災いに関して語らないメッセージャーも同じく、「神の前に災いになる牧師や教師」と見なされます。

「災い」という言葉に関して、ふと思い出す御言葉があります。イエスさまがパリサイ人や律法学者に対して言われた言葉です。ちなみに「忌まわしい」のところは、KJV 訳では、「災難」と書かれています。すなわち「災い」と同じ意味合いです。

参照 ルカ 11:42

**11:42** だが、忌まわしいものだ。パリサイ人。あなたがたは、はっか、うん香、あらゆる野菜などの十分の一を納めているが、公義と神への愛とはなおざりにしていません。これこそ、実行しなければならない事がらです。ただし他のほうも、なおざりにしてはいけません。

パリサイ人や律法学者は今で言う、牧師や教師の立場の人たちです。もしかすると、キリスト教会を引っ張っ

ていくリーダー的な存在とも言える人たちのことも言われているのかも知れません。しかし、イエスさまはそのような人たちに対してははっきりと、「偽善」だと言われているのです。イエスさまがそのように言われたのは、「公義」すなわち「裁き」(KJV 訳)のことをなおざりにしていたからです。私の想像なのですが、当時のパリサイ人や律法学者が語っていたメッセージというのは、今のキリスト教会と同様、「クリスチャンが天の御国に入るは楽勝！」と、そのような概念に基づくメッセージばかりが語られていて、もっとも肝心な永遠の命に関わる「裁き」や「悔い改め」についてのことをないがしろにしていたのでは？と思います。このことは以前、「公義」と題して話をさせていただいたと思いますが、献金はきちんとしているし、神の愛は語るけれども、一方の裁きに関して語られていないということをおっしゃっているのです。たしかに献金も神の愛も大事なことです。しかし、「これこそしなければならぬ」とおっしゃっているように、「神の裁き」は、もっとも大事だと言われているのです。分かりやすく言うと、このことを抜きにメッセージをしても、「人々を永遠の命に導くことは不可！」だということを言われているのでは？と思います。

また、「偽善」との言葉に関連して、聖書のあちこちに「にせ使徒」とか「にせ兄弟」とか「にせ預言者」という言葉が出てきます。ちなみに「にせ」の部分は、KJV 訳では「間違えた」という風に訳されています。つまり聖書の言葉を間違えて伝える牧師や教師のことを言われているのです。

このようなたとえがよいかどうか分かりませんが、ある人が志望の学校に入るために家庭教師を依頼することにしました。普通、家庭教師はその人が希望した学校へ何とか合格できるように熱心に指導をします。ところがその教師は、1+6=「7」のところ、「10」とか、そんな風に教えます。それに限らず、一事が万事、まったく違うことばかりを教えたとします。そうすると、どうでしょうか？言うまでもなく、「不合格」ですよ。

また、依頼した人は二度とその家庭教師には教わろうとは思いませんよね。このようなことと比較してよいかどうかはわかりませんが、聖書の御言葉を教える牧師や教師の人たちにも、こういったことが言えるのでは？と思います。間違えたことばかりを教えていくときに、ご自身だけでなく、信徒の人々までをも、「天の御国」ではなく、

## 「教会を荒らす牧師や教師への神からの警告」 E3

「ゲヘナ」へと導いてしまうのです。先ほどの例は、この世のことにしか過ぎません。

しかもこういったことに関しては、再度チャンスがありますし、きちんと教えてくれる先生に代えれば済むことです。しかし、今までも繰り返し語ってきましたように、永遠の命に関しては、「ワンチャンス」しかありません。もし地上で生きながらえている間に、にせ(間違えた)教師から、誤りの教理を受け続けていくときに、まったく違う方向を歩んでしまうこととなります。たとえばメッセンジャーが艱難前携挙説を奨励することによって、恐らく信徒の方たちは艱難に向けての備えはしなくなると思います。あるいは弟子として歩むようにも書かれていますのですが、そのことをおすすしめしなかつたら、ずっと群衆の歩みでも大丈夫と思って弟子として歩もうとはしないのではないのでしょうか？そしてその行き着く先は、「永遠の命」ではなく、「永遠の刑罰」なのでは？と思います。

そう、牧師や教師が災いになるようなことばかりを語っていくときに、パリサイ人や律法学者と同じ轍を踏むことになり、最悪の裁きを招いてしまうのです。御言葉はこのように語っています。

**参照 マタイ 23:13,15**

**23:13** しかし、忌むべきものだ。偽善の律法学者、パリサイ人たち。あなたがたは、人々から天の御国をささげているのです。自分もはいらず、はいろいろとしている人々をもはいらせないのです。

**23:15** 忌むべきものだ。偽善の律法学者、パリサイ人たち。改宗者をひとりつくるのに、海と陸とを飛び回り、改宗者ができると、その人を自分より倍も悪いゲヘナの子にするからです。

下線を引いた部分に着目していただきたいのですが、もしそのようなことをこれから先もずっと続けていくのなら、あわや、ご自分が牧会されている信徒の人までも永遠の刑罰へと道連れにしてしまうことをここでは言われているのです。裏返すとこの御言葉は、教師や牧師だけでなく、神さまの前に、「災い」とか「偽善」と呼ばれる牧師や教師にくっついていくときに、信徒の人たちも同じく裁きに会うことについて言われているのです。偉そうな言い方でとても恐縮なのですが、そういうことを前もって回避していきなさいということを神さまは何度も繰り返し

て語っておられるのでは？と思います。私の勘違いでなければですが、今のキリスト教会や牧師や教師のことを霊的な視点で見ると、「災い」となっている人たちが多いいのでは？あるいは、そのように聞いても話半分という風に、そういったことについて恐れを抱いておられる方はあまりおられないのでは？と思うのですが、いかがでしょうか。人間的には、そうではないことを願いたいのですが、もしそうだとしたら・・・人前はともかく、神さまから、「偽善」とか「災い」とか言われることのないように、ぜひ悔い改め(方向転換)をしていきたいと思っています。

御言葉を通して語っている、「教師が神の前に災いになる」ということは、今の終末の時代、まさに成就していると思いましたが話をさせていただきました。はじめにも申し上げたように、このことに関して、以前エレミヤ牧師が繰り返して語っておられたかと思いますが、再度ぜひ耳を傾けてくださったらとても幸いに思います。いつも大切なことを語ってくださる神さまに栄光と誉れがありますように。

主に感謝して。

ー以上ー



**偽善の律法学者、パリサイ人**

